



家計に潜む 埋蔵金を掘り出そう



残念ながら家計簿をつけて家計の現状を把握するだけでは
お金が貯まるようにはなりません。集めた家計の実態を分析することで、
家計に潜むムダを発見し、見直すことで、家計は改善していきます。3回連載の今回は第2回です。

家計簿をつけるだけでは お金は貯まらない



なかなか「お金が貯まらない」と悩んでいる人は多く
います。何も努力していない人であれば貯まらなくて当
たり前。でも、長年家計簿をつけていても貯まらない人
が沢山いるのはなぜでしょうか。

家計簿をつけるだけでも家計が引き締まる効果が見
られることがあります。これは一時流行した「レコーディ
ング・ダイエット」と同様に、お金を使っていることを自
覚することが自制につながったものと考えられます。多
くの場合で効果を発揮できない原因は、家計の実態の分
析がされていないからです。

家計管理は「予算目標設定→データ収集→データ分析
→改善」のサイクルを回していくことが大切です。この中
のデータ収集が家計簿をつけることです。また、そもそも
実現したい予算目標がなければ、いいのか悪いのかも分
析できません。家計の支出はただ減らせればいいというも
のではありません。家庭平和のためにも必要以上に減ら
さない方がいいですし、減らすにも戦略が必要です。

やりくり費より先に 固定費の無駄をなくそう



では、家計の見直しはどこから手を付ければいいのか
でしょうか。食費やレジャー費、小遣いからカットしてい
ないでしょうか。これらの費目は日々やりくりする「やりく
り費」。工夫することで削るならいいのですが、我慢をす
ることで削りがちなお金です。やりくり費を削ると、生活
レベルが下がるため家族から不満も出やすくなります。

一方で、家計の支出には「固定費」と言われる費目があ
ります。銀行口座やクレジットカードから定期的に引き落
とされるお金で、家賃、住宅ローン返済、保険料、水道光
熱費、通信費、教育費などが該当します。たとえば、ムダな
保険を削る、スマートフォンの通信プランを格安プラン

に変更する、といった見直しをすれば家計は楽になりま
す。やりくり費と違い固定費を削っても生活レベルは下
がりませんし、毎日頑張る必要もありません。

ですから、家計改善は固定費の削減から取り組むべき
なのです。固定費を削った分だけ、やりくり費の予算は増
えていきます。家
族の不満も少なく
しつつ、お金が貯
まる仕組みができ
あがるのです。

| やりくり費 | 固定費 |
|-------------------------------------|---|
| 食費 外食費 レジャー費 被服費 小遣い など | 家賃・住宅ローン返済 保険料 水道光熱費 通信費 教育費 など |

ちりも積もれば山となる



家計の見直しと言うとセコイと軽く見る人がいます。
固定費は一度見直すと効果はずっと続きますので、一見
すると小さく見える固定費の見直しも長期間で考えると
まとまった効果になるのでバカにはしてはいけません。月
1,000円の見直し効果でも、1年で1万2,000円、10年
で12万円にもなるのです。あなたの家計にもこうした埋
蔵金がかつと眠っているはず。1つでも多く探し出して、
無理せずお金が貯まる家計を作りましょう。

今回は「リスクと上手に付き合って運用を楽しもう」
をご紹介します

PROFILE



CFP®
藤川 太さん

1968年、山口県生まれ。生活デザイン
株式会社 代表取締役、家計の見直し相
談センター 代表、日本ファイナンシャル・
プランナーズ協会 理事。「家計の見
直し相談センター」で個人向けの家計
相談サービスを展開。設立以来セン
ターの相談件数は3万世帯を超える。
『やっぱりサラリーマンは2度破産す
る』(朝日新聞出版)、『世界一かんたん
なNISAとiDeCoの得する教科書』(宝
島社)など、著書多数。